

大会名 Competition	第46回全国高等学校バスケットボール 選抜優勝大会秋田県予選会男子決勝
NO, M-2	Year Month Day Time 2015 年 11 月 1 日 14 : 18
場 所 Place	横手市増田体育館



秋田県高等学校体育連盟

バスケットボール専門部

主審:Referee
小野寺 浩 (秋田)
副審:1stUmpire
水木 順仁 (秋田)
副審:2ndUmpire
中道 凌平 (秋田)
テーブル・オフィシャル:Table officials
増田高校男子バスケットボール部

チームA		チームB
能代工		秋田工
102		55
○		●
	28 1st 11 18 2nd 20 24 3rd 12 32 4th 12 OT	

No,	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F	No,	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
4	×	盛 實 海 翔	CAP	10	0	5	0	2	4	×	森 川 哲 平	CAP	12	0	6	0	2
5	/	中 村 碧 杜		12	0	6	0	2	5	×	八 柳 優 星		4	0	2	0	0
6	×	斉 藤 大 輔		26	0	11	4	2	6	×	柴 田 滉太朗		3	0	1	1	0
7	×	小 室 望 海		11	2	2	1	3	7	×	諏 訪 裕 亮		13	3	0	4	0
8	×	大 高 祐 哉		6	0	3	0	1	8	×	渡 部 宏 斗		15	0	6	3	2
9	/	高 畑 陸		13	1	5	0	4	9	/	伊 東 和 輝		8	0	4	0	0
10	×	金久保 翔		3	1	0	0	1	10		三 浦 夢 城		-	-	-	-	-
11	/	柴 田 一 真		2	0	1	0	0	11		佐 藤 鳳 斗		-	-	-	-	-
12	/	富 樫 優 汰		3	1	0	0	0	12		石 川 竣		-	-	-	-	-
13	/	植 村 太 一		14	2	4	0	0	13		佐 藤 大 輝		-	-	-	-	-
14	/	山 田 柊 人		0	0	0	0	1	14	/	広 川 汰 輝		0	0	0	0	1
15	/	児 玉 海 渡		2	0	1	0	0	15	/	片 村 俊 介		0	0	0	0	0
16		山 田 魁 都		-	-	-	-	-	16		宮 野 良		-	-	-	-	-
17		熊 谷 弥 高		-	-	-	-	-	17		田 中 北 斗		-	-	-	-	-
18		長 濱 宏治郎		-	-	-	-	-	18		千 國 秀		-	-	-	-	-
19		石 田 淳		-	-	-	-	-	19		高 杉 暁 登		-	-	-	-	-
20		守 屋 健次郎		-	-	-	-	-	20		新 保 優 弥		-	-	-	-	-
21		守 屋 壮次郎		-	-	-	-	-	21		伊 藤 亮 太		-	-	-	-	-
コーチ		栄 田 直 宏							コーチ		片 桐 博 美						
Aコーチ		杉 沢 政							Aコーチ		柏 木 寛 太						
合 計				102	7	38	5	16	合 計				55	3	19	8	5

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3ポイントシュート 2P:2ポイントシュート FT:フリースロー F:ファウル

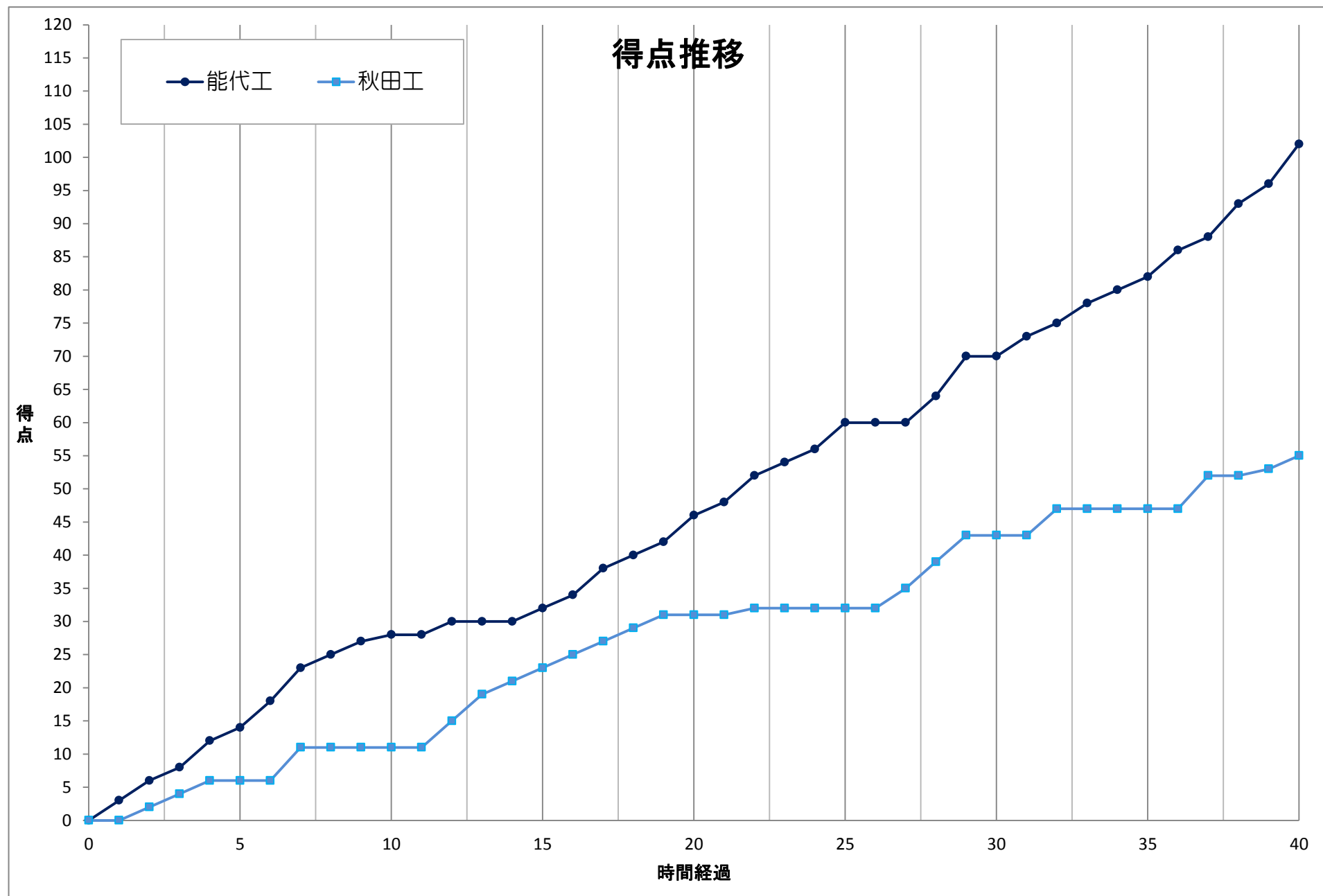
男子決勝は、46年連続46回目の優勝を狙う能代工と、初優勝を目指す秋田工の対戦となった。両チームともマンツーマン・ディフェンスで始まる。開始5分間は両チームとも攻めあぐね得点が伸びない。能代工はディフェンスのプレッシャーを強め、#6 斉藤が4連続得点を決めて18-6とリードを広げたところで秋田工はタイムアウト。その後、秋田工は#7 諏訪が3Pシュートを決めて10点差まで詰めるものの、能代工の#6 斉藤がゴール下のシュートを確実に沈め、28-11と能代工のリードで第一ピリオドを終える。

第二ピリオド、秋田工は#4 森川や#8 渡部のポストプレーや合わせのプレーで加点し30-22と点差を縮める。一方の能代工は3Pシュートが決まらず苦しい展開が続く。その後、残り4分を切ったところで能代工はようやく#9 高畑の3Pと#6 斉藤の速攻が決まり39-25と差が開いたところで秋田工はたまたまタイムアウト。能代工はディフェンスを3-2ゾーンに切り替えると秋田工はターンオーバーが続き得点が止まる。能代工は得意の速い展開に持ち込み、46-31と能代工のリードで前半が終了した。

第三ピリオド、点差を縮めたい秋田工は3-2ゾーンに切り替えるが、能代工のディフェンスを崩せず、開始3分間はフリースローの1点のみと苦しい展開が続く。逆に能代工はディフェンス・リバウンドからの速攻が立て続けに決まり、残り5分を切ったところで60-32と点差を広げる。秋田工も#9 伊東のゴール下や#8 渡部のミドルシュートで加点するも、能代工は#13 植村がすかさず速攻や3Pシュートで入れ返し主導権を渡さない。リバウンドを支配し速い展開に持ち込んだ能代工が70-43とリードを広げて第三ピリオドを終えた。

最終ピリオド、能代工は#7 小室が3Pと速攻を決めると、秋田工も#9 伊東の合わせや#8 諏訪のタッグシュートが決まりこちらも譲らない。残り6分、能代工の速攻や3Pシュートで80-47となったところで秋田工はタイムアウト。その後も能代工はディフェンスのプレッシャーを強め、#4 盛實の速攻や#8 大高の3Pシュートが決まり差を広げる。秋田工も#7 諏訪の3Pシュートで意地を見せるが、リバウンドからの速い展開で能代工が連続得点を決めて秋田工を突き放した。102-55で能代工が46年連続46回目の優勝を決めた。

文責 【 打矢 泰之 】



大会名 Competition	第46回全国高等学校バスケットボール 選抜優勝大会秋田県予選会女子決勝
NO, M-1	Year Month Day Time 2015 年 11 月 1 日 12 : 40
場 所 Place	横手市増田体育館



秋田県高等学校体育連盟

バスケットボール専門部

主審:Referee 佐藤 良明 (秋田)
 副審:1stUmpire 升屋 章 (秋田)
 副審:2ndUmpire 長澤 允彦 (秋田)
 テーブル・オフィシャル:Table officials
 湯沢高校男子バスケットボール部

チームA		チームB
湯沢翔北		秋田和洋
97		52
○		●
	28 1st 8 18 2nd 14 34 3rd 16 17 4th 14 OT	

No,	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F	No,	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
4	×	佐々木 怜 音	CAP	14	0	7	0	2	4	×	北 嶋 玲 奈	CAP	11	3	0	2	3
5	×	柴 田 知 恵		11	3	0	2	1	5	×	近 藤 萩		13	3	2	0	5
6	×	加 藤 杏 香		18	0	6	6	0	6	×	斎 藤 樹 里		4	0	1	2	2
7	×	加 藤 舞		25	1	8	6	4	7	/	澤 田 小 春		0	0	0	0	0
8		宮 野 茉 恵		-	-	-	-	-	8	/	鈴 木 詩桜里		0	0	0	0	0
9	×	千 葉 沙 希		10	0	2	6	2	9		福 田 瑛莉香		-	-	-	-	-
10	/	篠 原 陽 夏		14	0	7	0	1	10	×	佐々木 茜		8	0	4	0	-
11	/	柴 田 理 央		3	1	0	0	0	11	/	丹 理 香		4	0	2	0	1
12	/	高 橋 果 林		0	0	0	0	0	12		紺 野 翠		-	-	-	-	-
13	/	村 上 瑠 奈		0	0	0	0	2	13		小 林 佳 央		-	-	-	-	-
14	/	長 澤 のぞみ		0	0	0	0	1	14	/	三 浦 奏 子		6	0	2	2	-
15	/	高 橋 悠 佳		2	0	1	0	1	15		中 村 佳 乃		-	-	-	-	-
16		鎌 田 華		-	-	-	-	-	16	/	赤 塚 星 南		0	0	0	0	-
17		鈴 木 華 音		-	-	-	-	-	17		柴 田 奈 波		-	-	-	-	-
18		鈴 木 あ み		-	-	-	-	-	18		鎌 田 光 南		-	-	-	-	-
19		藤 田 悠 楓		-	-	-	-	-	19	×	櫻 庭 真 子		6	1	0	3	1
20		佐 藤 緩 乃		-	-	-	-	-	20	/	成 田 陽 菜		0	0	0	0	1
21		横 山 萌 華		-	-	-	-	-	21		佐 藤 穂乃香		-	-	-	-	-
コーチ		樋 渡 真 裕							コーチ		松 岡 圭 一						
Aコーチ		熊 谷 傳 裕							Aコーチ		伊 藤 里 咲						
合 計				97	5	31	20	14	合 計				52	7	11	9	13

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3Pポイントシュート 2P:2Pポイントシュート FT:フリースロー F:ファウル

女子決勝は6月のインターハイ予選決勝と同一カード、東北王者湯沢翔北に秋田和洋が挑む一戦となった。

湯沢翔北は試合開始からフルコートのディフェンスからトラップを仕掛け、試合の主導権を握る。＃7加藤(舞)のリバウンドショットやスティールからの速攻で開始3分で翔北9-2和洋となると、秋田和洋はたまらずタイムアウトを請求する。しかし湯沢翔北の勢いは止まらず、次々と相手のボールをスティールしては＃5柴田の連続3Pなどで加点し、28-8と20点のリードを奪って第1ピリオドを終える。

第2ピリオド序盤も試合展開は湯沢翔北ペース、ガード陣の巧みなアシストパスから＃10篠原がゴール下で得点する。湯沢翔北の激しいディフェンスに苦しむ秋田和洋は得意の攻撃パターンに持ち込むことができないが、＃5近藤、＃4北嶋らが3Pを沈め、必死に食い下がる。しかし点差を詰めるには至らず、46-22と湯沢翔北がリードを広げて第2ピリオドが終了。

第3ピリオド、疲れが見え始めた秋田和洋は湯沢翔北のスピードに対応できない場面が増え、ファウルがかさんでしまう。湯沢翔北は次々と速攻を繰り出し、さらには相手のファウルで得たフリースロー13本すべてを沈め、80-38と大量リードを奪って第3ピリオドを終了。

第4ピリオドに入っても湯沢翔北のスピードと運動量は衰えず、＃10篠原、＃15高橋(悠)らのインサイドでじわじわとリードを広げる。秋田和洋も途中出場の＃14三浦が連続得点して意地を見せるが、湯沢翔北97-52秋田和洋で試合終了のブザー。圧倒的な強さを見せた湯沢翔北が7年連続15回目の優勝(前身の湯沢北時代を含む)を果たし、ウインターカップ2015の出場権を獲得した。

文責 【 系井 大輔 】

